

## 安来市加納美術館

安来市加納美術館は、安来市広瀬町の飯梨川の川岸近くの森繁る谷に位置しており、加納莞薔（1904–1977）の生涯と作品を紹介しています。加納は、1938年まで洋画の油絵の教育を受け、愛国画の制作を依頼されて日本帝国陸軍とともに中国山西省に派遣されました。中国滞在中に加納は水墨画と書道を始め、後にそれらを中心とした活動を行うようになります。戦時中の経験から、日本の降伏後は平和活動家として活動し、1949年にはフィリピン政府に戦争犯罪で有罪判決を受けた元日本軍人の恩赦を求める請願を開始しました。彼はフィリピン政府の指導者たちに300通以上の反省文を送り、平和を訴え、「許されざる者への赦し」を求めました。彼の忍耐強く粘り強い努力は1953年にやっと実を結び、当時のエルピディオ・キリノ大統領は105人の日本人戦犯の恩赦を宣言しました。キリノ大統領は目の前で日本兵に妻と3人の子供を殺されていたのですが、加納とキリノ大統領は親友となり、共に平和を訴える努力を行いました。

### レイアウトと収蔵品

このコンパクトでよくまとめられた素晴らしい美術館は、作家の長男である故・加納溥基が加納家のあった場所に1996年に設立したものです。収蔵・展示スペースは2階分あります。展示室の1つでは加納の平和と恩赦の活動を紹介し、もう1つの展示室では戦前から1977年に亡くなるまでの加納の絵画や映像作品120点以上を、ローテーションを組んで順次展示しています。またこの美術館は、800点を超える、日本最高の備前焼のコレクションと考えられているものも所蔵しています。当館の茶室で開催される特別イベントでは、これらのコレクションの中から厳選されたものに触れることができます。これには、河井寛次郎や荒川豊蔵などの現代の巨匠の作品を含む、290点を超える楽焼が含まれます。また、加納と同世代で友人でもあった、小野竹喬や池田遙邨などの有名な画家による日本画の大規模なコレクションもあります。